IS　～NEXT～

Xsis

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ＩＳ　～ＮＥＸＴ～

【Ｎコード】
Ｎ９７６９Ｙ

【作者名】
Ｘｓｉｓ

【あらすじ】
ＩＳを使える２人目の男が、面倒なＩＳ学園生活を送る。そんな話。

プロローグ・・・？（前書き）

突発的に始めた。
更改はしていない（キリッ

プロローグ・・・？

ＩＳ・・・インフィニットストラトス。宇宙空間での使用を目的としたマルチプラットフォーム・スーツ

（女しか使えない欠陥品）。開発当初の目論みとは裏腹に、軍事使用が・・・（超略）

これは２人目の男ＩＳ操縦者である主人公の話である・・・予定

「ＩＳ学園・・・面倒だ・・・」

「・・・仕方ないか・・・報酬も貰ってるんだ、今更断れないか。傭兵がこんなこと・・・」

そういうと灰髪の青年は歩き出した・・・

入学初日

（・・・なんだこの目線は）

客寄せパンダ状態じゃないか・・・

「・・・・・・」

あのもう一人の男もキツそうだな・・・まぁ、どうでもいい。

「・・・織斑一夏です」

・・・あいつの自己紹介か・・・どうでもいい。

「・・・以上です！」

・・・ん？周りがずっこけたな・・・なぜだ？←聞いてなかった

・・・次は俺の紹介か・・・面倒だ・・・

「・・・俺の名は・・・」

「佐伯　迅だ、佐伯と書いてサハクと読む。…特に仲良くするつもりはないが宜しく。」

こうして、俺の面倒なＩＳ学園での生活が始まった・・・。

プロローグ・・・？（後書き）

・・・予定は未定です

・・・面倒だ・・・・（前書き）

長い文が書けない・・・・

（´・ω・`）

・・・面倒だ・・・

2時間目終了・・・

「・・・・・・（何だこの目線は・・・・）」

・・・さっきより視線がキツイが・・・何か変な目で見られているような・・・

（変な目線の人（ハァハァ・・・蔑んで欲しい・・・））

・・・気にしないでおこう・・・

「・・・相変わらずキツイこと言うわね？ジン」

「・・・お前もこのクラスか・・・」

こいつは俺の幼馴染兼同僚の如月千夏・・・

「・・・俺は面倒がキライなんだ・・・アレ位言わなきゃダメだろ・・・」

「変わらないわね～半年会ってないから変わったと思ってたけど・・・」

「そんだけで変わらないだろ普通・・・」

「・・・変わる人もいる・・・」

「・・・お前もか・・・・アリサ」
コイツも俺の同僚・・・アリサっていうんだが・・・それだけしか情報がない変な奴だ
「・・・あっち・・・・」
「あっちって・・・何だ？」
「男・・・もめてる」
「ホントだ、代表候補生の人が織斑って人に突っ掛ってる」
「・・・フン・・・くだらん・・」少し大声で言ってみる
「なんですってぇ！？」ククッ食いついたか・・・
「あなた、このセシリア・オルコットを侮辱しますの！？」
「俺はただ下らんといっただけだが？」
「なっ・・・！あなた・・・！」ここでチャイムが鳴る。
「ッお話はまた後で！」
「・・・ククッ」
こういう奴はおちょくりやすいな・・・
（（・・・ドSだ・・・））

「授業を始めるぞ」ここで初登場織斑先生

「そういえばクラス代表をまだ決めていなかったな、自薦でも他薦でも構わん。とっとと決めてくれ」

随分投げやりだな・・・

「私は織斑君を推薦しま～す」「えぇ！？お、俺！？」

「私は佐伯様を推薦します！」・・・さ、様！？

「・・・納得いきませんわ！！」やっぱり食いついてきた

「大体、男がクラス代表だなんて、いい恥曝しです！このセシリア・オルコットに1年間そのような屈辱を味わえというのですか！？実力から行けば私がクラス代表になるのは当然！それを物珍しいという理由で極東の猿にされては困ります！」・・・ビキッ・・・猿ダァ？

「私はこのような島国までＩＳ技術を修練しに来ているのであってサーカスをする気は毛頭ありませんわ！！」・・・サーカス・・・かな

（（・・・ヤバイ・・・ジン、キれてる））

「いいですか！？クラス代表は実力トップがなるべき！そしてそれは私ですわ！大体、文化としても後進的な国で「くだらんな」な、なんですってぇ！！？」

「大体日本に思い入れがあるわけじゃないがイギリスも日本も島国だし変わわねぇじゃねぇか・・・まぁ、飯は日本のが美味いが」

「あ、あなた、祖国を侮辱しますの！？」
「侮辱してきたのはソッチだろ、それに・・・」
「・・・それになんですか」
「それにお前がこの中で最も強いとも限らないだろ？」
「あ、あなた！祖国だけじゃなく私まで侮辱しますの！？」
「ハッ・・・俺がお前より強いってことだよ」
「なっ・・・」
「それに・・・お前・・・　人　を　殺　せ　る　か？」
「ッ・・・」
「お前にはそういう覚悟がないように見えるが？」
「・・・・・よろしいですわ、ならば決闘ですわ！」
「・・・いいだろう、相手になってやるよ」
「私が勝ったらあなたを奴隷にしてさしあげますわ！」
「・・・俺が勝ったら、喚くのはやめてもらおうか」
「・・・話は纏まったな、では、決闘は来週の月曜、第３アリーナ

で行う。佐伯対オルコットで勝った方が織斑と戦ってもらう、いいな！」

「ま、待ってくれ千冬姉！・・・・グワッ」

「織斑先生と呼べ・・・お前に決定権はない・・・いいな！」

「・・・はい」

「では授業を始めるぞ」

・・・面倒だ・・・（後書き）

頑張った、すごい頑張った

サブタイって考えるのメンドイ（前書き）

・・・前書きなんて書くことないです

（´・ω・｀）

サブタイって考えるのメンドイ

「・・・対決・・・ねぇ・・・・」

「大丈夫なの？勝てるか分からないのにあんなこと言っちゃって・・・助けないよ？」

「・・・不安」

「フッ・・・大丈夫に決まってる・・・オレがあんな奴に負けるわけがないだろ？」

「・・・そうよね、大丈夫よね！」

「・・・期待・・・してる・・・」

放課後

「おい！佐伯！」

「・・・？なんですか？」

「お前の部屋割りが決まった」

「・・・しばらく家から通う予定だったけども・・・」

「お前も拉致られても可笑しくはない、だから・・・」

「・・・安全のため・・・といいつつ幽閉・・・か」

「幽閉とまでは行かないが・・・まぁ、お前の部屋番号は１０４０番だ」

「分かりました」

・・・

「１０４０は・・・と、ここか」

相部屋するのは・・・やっぱり織斑か？

ガチャ

「・・・誰もいない・・・というか３人部屋？」

・・・どういうことだ・・・？

「・・・もしかして・・・嫌な予感しかしない・・・」

ガチャ

「！？」

「「「・・・え？（やっぱりか）」」」

「え、ちょ・・・なんでこの部屋にいるの？ジン」

「・・・オレはこの部屋だと・・・織斑先生からの命令（？）だ」

「え、でもここは私とアリサの部屋だって・・・」

「・・・・・私は・・・構わない」

「えぇ！？」

「オレはどっちでもいいが・・・出てけと言うなら出てくし」

「・・・むぅ・・・その・・・アリサがいいって言うなら・・・いい・・・かな？／／／」

「・・・助かるよ」

そして・・・月曜日・・・

「・・・調整完了」

オレのＩＳの整備も完了したし・・・

「・・・なぁ」

「・・・ん、なんだ、織斑か」

「お前はＩＳ持ってるだろ？」

「無論だ」

「それって、どんなＩＳなんだ？」

「・・・それは・・・オルコットとの試合で見てみろ」

「オレのＩＳ・・・」

「・・・零（ゼロ）をな」

サブタイって考えるのメンドイ（後書き）

ＩＳ名が適当？厨二臭い？
ハッハッハ・・・
（，・ω・、）知らんがな

設定（前書き）

ジンのプロフィールとかＩＳとかです

設定

主人公

佐伯　迅　（サハク　ジン）

身長１７８ｃｍ　体重５６ｋｇ

灰髪でＦＦのクラウドみたいな前髪に肩甲骨くらいまである後ろ髪を首の後ろで束ねている

面倒臭がりで口が悪く、ドＳ。

ＩＳ情報

ＩＳ名　零（ゼロ）　型番　ＩＳ－ＮＸ－００５　世代　不明

基本装備

複合兵装『ベール』×２

両肩に付いていて大型のビーム砲に大量のＢＩＴ兵器が搭載されている

内蔵レーザーブレード×４

両手足に一本ずつ装備している

ＮＥＸＴ（ネクスト）ＩＳと呼ばれる次世代型ＩＳの５機目（この小説での二次

設定）ＮＥＸＴＩＳの共通装備として通常のエネルギーシールドとは別にプライマルアーマー、通称ＰＡを装備しており拳銃弾くらいなら完全に無効化できる。ＰＡを爆発させるアサルトアーマー、通称ＡＡにより一時的にＰＡを展開できないが周囲のＩＳに膨大なダメージを与えることが出来る。

ＮＥＸＴＩＳの一覧

ＮＸ－００１　ＡＡＬＩＹＡＨ
ＮＸ－００２　ＴＥＬＬＵＳ
ＮＸ－００３　ＨＯＧＩＲＥ
ＮＸ－００４　？？？？
ＮＸ－００５　零

ＮＥＸＴＩＳの共通点として、基本装備（プリセット）を持たないことで格納領域を飛躍的に増やしている。だが零は機体の一部として武装を装備しているので、それには当てはまらない？

ＮＥＸＴＩＳの武装
ネクストは背部ハードポイントｘ２、肩部ハードポイントｘ２、手持ち武装ｘ２を所持することで圧倒的な火力を持つ
ネクストは武装をすべて共通している（一部除く）

零の良く使う武装

腕部武器

軽突撃ライフル『ＭＡＲＶＥ』
威力の高いライフル、装弾数が少ない

重狙撃銃『ＦＥＮＲＩＲ』
大型のエネルギースナイパーライフル

重マシンガン『ケルベロス』
３つの銃口を持つマシンガン

大型ショットガン『ガルム』
高威力のショットガン。散弾故、射程が・・・

腕部装着型複合武装『スフィア』
ＥＮシールドとレーザーライフル、大型ブレード、超小型ミサイルが
複合された武装、零は大体これを右手に装備している

大型レーザーブレード『ＭＯＯＮ－ＬＩＧＨＴ』
腕部装着型のブレード。白式の零落白夜と同等の威力を誇る

レールガン『ＶＥＧＡ』
大型のレールガン。それだけ。

レーザーライフル『ＫＡＲＡＳＡＷＡ』
大型レーザーライフル。高威力が魅力。

背部武装

分裂ミサイル『セレーネ』
８基に分裂するミサイル。

超大型ビームキャノン『ＳＩＲＩＵＳ』

全長２．５ｍにも及ぶ大型キャノン。狙撃用

狙撃用レーダー『ＰＡＮＤＯＲＡ』
大型のレーダーと狙撃補助装備。シリウスと共用される

グレネードキャノン『ＳＡＰＬＡ』
実弾グレネード。高威力。

設定（後書き）

こんな物かな？まぁ、何かあったら修正します

「・・・ゼロ？」

「そう・・・オレの愛機だ・・・」

「なんか・・・凄そうだな・・・」

「そういうことは、実物を見てから言え」

「あ、ああ・・」

「…まあ、いいさ」

「久々の起動だが・・・イケるよな？ゼロ」

・

・

・

『ゼロ・・・起動・・・』

そのＩＳは・・・

鋭角的で攻撃的なデザイン・・・肩の巨大なバインダー・・・口元しか露出していない・・・

漆黒の機体・・・

「・・・かっけぇ・・・」

「・・・お前も今日ＩＳ届くんだろ？とっとと行け」

「ヤバッ！忘れてた！」

「・・・・やっぱアイツアホだろ・・・」

・・・見た感じアホな感じだったが・・・

「・・・頑張ってね？」

「ハッ・・・俺が負けるとでも思うか？」

「いや、そういうわけじゃないけども・・・」

「・・・・・・やっぱり不安・・・」

「・・・ハァ・・・まぁ、適当にボコしてくる」

「・・・・・・やりすぎ注意・・・」

その言葉を背に受け、俺はピットを出た・・・

「あら？逃げずにのこのことやってきましたわね？」

減らず口だな・・・

「ハッ・・・誰が逃げるかよ」

「それにしても、随分と重装甲ですわね？」

「これのどこが重装甲なんだ、たかが露出が少ないだけで・・・」

「むぅ・・・いいですわ！代表候補生の実力、その身に刻んで差し上げますわ！」

まぁ、そっちが刻み付けるなら・・・

「このゼロの恐怖、貴様に縛り付けてやる！」

《Ａｌｅｔｅ　Ｅｎｅｍｙ　Ｆｉｒｅ》アラートが鳴り、オレは上昇する

「・・・よくかわしましたわね？」

「バカ正直に正面に撃ってくるからだ・・・今度はこっちからだッ」

《Ｒｉｇｈｔ　ａｒｍ　Ｓｐｈｅｒｅ　Ｅｘｐａｎｄｅｄ》
《Ｌｅｆｔ　ｈａｎｄ　Ｇａｒｍ　Ｅｘｐａｎｄｅｄ》
右腕に複合盾、左手にショットガンを展開し、オルコットのＩＳ（ブルー・ティアーズ）に向かって加速する
「なっ！？何ですのその速度は！」
「さぁ、何でだろうなッ！」
至近距離でショットガンを放つ
「キャッ！・・クッ、行きなさい！Ｂ・Ｔ（ブルー・ティアーズ）！」
「おっと、危ない・・・」
横方向へのブーストで離脱する・・・
「なッ！瞬間加速（イグニッション・ブースト）！？」
「ＱＢ（クイックブースト）・・・Ｇがキツイが慣れると心地よいな・・・じゃあ、こっちも火力出すか」
《Ｇａｒｍ　Ｓｔｏｒｅｇｅ　Ｖｅｇａ　ｅｘｐａｎｄｅｄ》
《Ｒｉｇｈｔ＆Ｌｅｈｔ　ｂａｃｋ　Ｓｅｌｅｎｅ　ｅｘｐａｎｄｅｄ》
レールガンとミサイルに切り替える・・・
（・・・２発当てればＢＩＴは沈むか？）ミサイルのロック開始・・・

《Ｅｎｅｍｙ　ｍｉｓｓｉｒｅ　Ｌｏｃｋ－ｏｎ》

（・・・ファイア）

《Ｆｉｒｅ》

両肩のミサイルポッドから数発のミサイルが発射される

「その程度で、私のＢ・Ｔを落とせるとでも？」

「思ってないさ・・・だが、ミサイルがこれだけと思うなよ？」

《Ｍｉｓｓｉｒｅ　ｄｉｖｉｓｉｏｎ》

ミサイル一つが８つに分裂する

「なッ・・・いとも簡単にＢ・Ｔが・・・！」

「・・・どうだ？このゼロの恐怖は？」

観戦席・・・

「ジン・・・相変わらず容赦ないわね・・・」

顔が引きつっている千夏・・・

「相変わらず・・・」
少しニヤついているアリサ・・・
「・・・何だあのＩＳは・・・三世代機を圧倒するなんて・・・」
ＩＳの性能に驚く織斑教諭・・・
「・・・すげぇ・・・」
目が点になっている一夏・・・
反応はそれぞれであった・・・

NEXTIS（後書き）

グーグル翻訳パネェっす

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n9769y/

IS　～ＮＥＸＴ～

2011年12月11日03時45分発行